

九州大学百年史（三輪宗弘執筆、付設記録資料館） 「第二八編第五章第六節 付設記録資料館」の解題

三輪，宗弘
九州大学：教授

<https://doi.org/10.15017/6779664>

出版情報：エネルギー史研究：石炭を中心として．38，pp.107-108，2023-03-25．九州大学附属図書館
付設記録資料館産業経済資料部門
バージョン：
権利関係：



【資料紹介】九州大学百年史（三輪宗弘執筆、付設記録資料館）

「第二八編第五章第六節 付設記録資料館」の解題

三 輪 宗 弘

解題

今回活字として紹介するのは、九州大学百年史「付設記録資料館」（第二八編 附属図書館）である。最終稿の直前に「付設記録資料館」（「石炭研究資料センター」）の文字数を削減してほしいとの要請があり、短くして提出した。『九州大学百年史』の第二八編第五章第六節である。左のPDFの七〇頁目から七七頁目までである。

https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/1801801/chapter_28.pdf

今回ここに活字として公にするのは、インターネットで公開しているものとは異なり、文字数を減らす前の原稿である。短くしたために削除された、伊都キャンパス移転前の震災や水害に伴う対応がより詳しくなっている。

九州大学赴任直後、当時経済学府長であった荻野喜弘「石炭資料研究センター」長から、経済学府に属していた「石炭研究資料センター」は改組

され、九州文化史などの四つの組織が一つになり、附属図書館の下に入り、新たな「記録資料館」となるといふ説明を受けた。荻野教授を中心に法学府植田信廣教授（法制史関係資料）、比較社会文化学府有馬学教授（文化史資料）の三人が作戦を練り上げ、箱崎キャンパスから伊都キャンパスに移転に際して、組織と資料を伊都キャンパスに移転後も残すということになったのであろう。私の前任の東定宣昌教授も参画されたであろう。東定先生や大学文書館の折田悦郎先生から「大学文書館」は「付設記録資料館」には参画しなかったという話を伺った。大学文書館は伊都キャンパスに居を移さず、箱崎キャンパスに蟄居籠城し、令和五年一月の時点でも旧工学部本館に陣取っている。

筆者の九州共立大学から九州大学に赴任後、荻野先生から、記録資料館の構想に関する検討会議に関する資料一式を引き継いだ。伊都キャンパスの文科系の移転に際して、新中央図書館の建設に関する委員会に出席するとともに文系地区の建物の設計の委員会にも参加した。筆者が、文系地区の場所取り合戦で調整者として立ち振る舞わらなかったのは不

思議な縁である。資料を入れるスペースの確保とカビ対策には意見を述べたが、現有面積に基づいて新キャンパスでの面積が割り出されたために、史資料が移転できるスペースは確保できる見通しがたった。閑話を挟む。東洋史の川本芳昭図書館長の支援の下、箱崎キャンパスの図書館で埃をかぶり埋もれていた資料の焚書坑儒を避け、無事に伊都キャンパスに安住の地を見出すことになった一齣は思い出深い。その一方で、重複した図書や資料はバツサリ廃棄処分とした。

伊都キャンパスへの移転前に、福岡県西方沖地震二〇〇五（平成一七）年三月二〇日）が直撃し、旧法文学部本館（応力研）の書架の多くが倒れ（ある一定の向きが激しく倒壊）、箱崎キャンパス内で資料の大移動をしなければならなかった。伊都キャンパスへの移転まで考え、地道な復旧作業を行った。工学部本館の地下に引越すことでスペースを確保したのはよかったが、大雨と台風で二度も水浸しになり（幸いにも万が一に備えて、資料は下段に置かなかったので水損は免れた）、またまた小松門近くの旧理学部の建物に引越すことになった。この時、元図書館長の有川節夫総長からスペース確保面で助言いただいたのだろう（事務スタッフの協力大）。旧理系図書館にも資料を保管したが、屋上の水漏れが散発し、中野由紀夫司書に対応いただいた。本文にも名前が登場する助手・助教は、長きにわたって、それぞれの個性を発揮して、引越のプランの策定と箱番号の張付けでフル回転いただいた。張暁紅助教と古賀康士助教には、移転作業の企画立案に尽力いただいた。一〇箱以下の資料群は移転に際して紛れやすいだろうということで、とりわけ注意を払った。東定宣昌名誉教授には資料の来歴などで何度も教示を受けた。また熊本大学に転出された外川健一助教授が資料の所在状況をわかりやすいよう

にということとで調べたデータベース「ありか」も保管場所がどこなのかよくわかり、移転作業で新旧の保管場所の対比ができるように工夫して、移転で紛れないように配架場所を特定できるスケレモノとして活用することができた。

荻野資料に依拠して、九州大学百年史「付設記録資料館」の誕生に至る経緯を詳しく書き進めた。人事に関しては運営委員会議事録を参照した。筆者はこれをコピーした。赤線を引いた箇所を何度も参照しながら、原稿を書き上げた。この時赤線を引いたコピーは記録資料館にバインダーとして綴じてある。また荻野メモ原本（荻野先生の書き込みあり）も揃っている。

付記

写真は割愛した。横書きを縦書きにしたため、漢数字などに変換した。九州大学百年史をネットで紐解かれない。